

子どもの身体能力の低下についての研究—今後の体育の在り方について—

A research for the decrease of the children's physical ability.

—Future style for the physical education.—

1K03B171-6

氏名 松尾拓行

指導教員 主査 友添秀則 先生 副査 倉石平 先生

【本研究の動機・目的】

私は2年ほど前から指導をしているミニバスで、スキップや靴紐を結ぶなど、私たちが普通に行ってきた動作ができない子どもたちが気になった。昔に比べ体格が向上しているにもかかわらず、体力・運動能力が低下していることは、身体能力自体の低下が深刻な状況であることを示していると言えるのではないだろうか。

子どもの体力の低下は、将来的に国民全体の体力低下につながり、生活習慣病の増加やストレスに対する抵抗力の低下などを引き起こし、社会全体の活力が失われるという事態に発展しかねない。

ミニバスを指導するようになってからこのような疑問を抱くようになり、学校体育が子供たちに及ぼす影響について関心を持つようになった。

よって本研究では、子供の体力低下の問題について取り上げ、その原因の追究から、学校体育が子供の体力に及ぼす影響について、今後進んでいくであろう体力低下の問題の解決策を考え、これからの体育のあり方について調べていきたいと思う。

【本研究の方法】

本研究は関連文献の購読によって行う。また、足りない部分はインターネットでの情報も利用し調べていく。

【第一章】

学習指導要領は、戦後八回の改訂がなされ、今回の改訂では体育の授業時間が減った。今、体育の存在意義が強く問われる中、世界の学校体育は大きく変わろうとしている。

体育授業の問題点は、体育の問題には、教師側の問題と生徒側の問題との2つの側面から語ることができる。

教師の立場からみた問題は、学習指導要領の改訂による授業時間の削減や「めあて学習」の問題があげられる。

生徒の立場からみた問題点としては、体力低下による「生きる力」の低下で、恒常的な身体機能や体力の低下は子どもたちの気力ややる気の減退につながり、体育の授業を難しいものになっている。

そのためこの章では、体育の現状から体育の望ましい在り方を示していく。

【第二章】

近年子どもの体力は長期的に低下傾向にある。文部科学省が昭和39年から行っている「体力・運動能力調査」によると、昭和60年ごろを境に子どもの走る力、投げる力、握る力などは全年代において長期的に低下の一途をたどっている。

子どもの体力の低下は、将来的に国民全体の体力低下につながり、生活習慣病の増加やストレスに対する抵抗力の低下などを引き起こすことが懸念され、社会全体の活力が失われるという事態に発展しかねない。

この章ではその現状を打開すべく、原因の克服の方法としてコーディネーショントレーニングを掲げ、その必要性を示している。

【第三章】

この章では体育の存在意義、体育は子どもにとって何故必要なのかを、人間形成の視点から見ていく。そして、これまでの放任の授業が多かった体育のこれからは、どのような体育になっていくのかを示している。

【結章】

子どもの体力低下が問題視される中、どのようにしてその問題を克服するのか。

「生きる力」が低下している現在の子どもたちが体育に夢中になるためには、楽しい授業にしていかなければならない。コーディネーショントレーニングは「楽しさ」の要素を多く含んでいることに加え、スポーツをする上で必要な体力を向上させることができる。何故学校体育にコーディネーショントレーニングを取り入れる必要があるのかというところでは、スキヤモンの発育発達曲線から理解してもらえる。

また、コーディネーショントレーニングは、もともと体格差で差別が出る現在の体育授業とは違い、神経系を鍛えるので差別にならない。

結章では、このコーディネーショントレーニングを体育の授業に取り入れてみることを提唱している。